

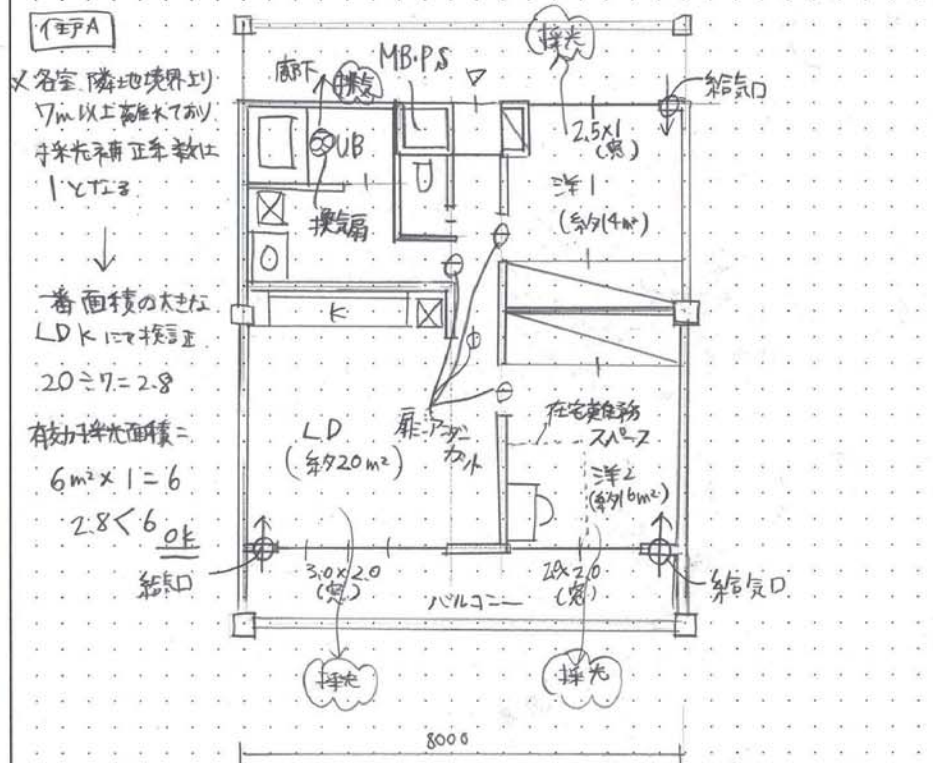
面積表

建築面積	$40 \times 25 = 1,000$	1,000.0
床面積	$40 \times 12 + 16 \times 9 - 16 \times 1.5 - 8 \times 2 - 8 \times 1.5 - 2 \times 7 = 526$ $8 \times 3 = 570$	合計
2階	$40 \times 19 - 24 \times 1.5 - 2 \times 7 = 710$	3,280.0
1階	$40 \times 25 = 1,000$	m ²

要求図面では表せない事項について、次の(1)～(5)の要点等を具体的に記述する。なお、(1)及び(3)については、必ずそれぞれの【イメージ図記入欄】に、平面図、断面図、イラスト等(フリーハンドでもよい。)により当該要点等の考え方を図示する。

(1) 住戸A又は住戸Bについて、住戸内平面図(縮尺1/100程度、イラストでも可。必要に応じて断面図で表現を【イメージ図記入欄】に示したうえで、下記の①～④についてそれぞれ記述する。

【イメージ図記入欄(必ず記入すること)】



①各居室の採光について考慮したこと(【イメージ図記入欄】に採光に関する開口部の大きさ、床面積等を示す。)

住戸は採光条件の良い、南側をメインの配置とし各居室は、外部に面する開口部を計画し法的な採光条件を確保できるように配慮した。

②在宅勤務について考慮したこと(【イメージ図記入欄】に在宅勤務を行うスペースを示す。)

採光条件の良い居室の窓際に、机を配置して読書スペースを設け、明るく気持ちの良い空間で在宅勤務ができれば良いように配慮した。

③住戸内の給排水について工夫したこと(【イメージ図記入欄】に住戸内の給排水管経路及びPSの位置を示す。)

メンテナンス性に配慮し、MB・PSを共用廊下側に設け、住戸内の水廻りスペースを、極力MB・PSに近接させることで、給排水配管ルートが短くなるように計画した。

④住戸内の給排気について工夫したこと(【イメージ図記入欄】に住戸内の給排気方式、経路等を示す。)

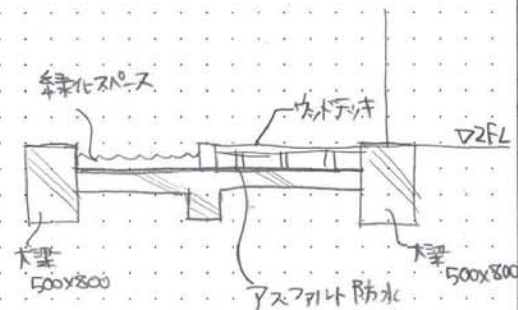
居室の外壁部の高い位置に給気口を設け、浴室の換気扇より排気する換気方式とした。

(2) 住戸間の床や界壁の遮音対策について工夫したこと

住戸の床は下階への遮音対策として、床材をクッション材付の仕上材を採用する言+画とした。
又、住戸の界壁については、床上から上階スラブまで壁を立ち上げる言+画とし、天井裏から音がまわりこむのを防ぎ遮音対策とした。

(3) 屋上庭園(出入口・通路及び植栽範囲)について、断面の構造等を【イメージ図記入欄】に示したうえで、下記の①～③について考慮したことをそれぞれ記述する。

【イメージ図記入欄(必ず記入すること)】



①梁断面、スラブ位置・厚さ

500x800の木梁間を一部スラブを下げ緑化スペースとし、又スラブ厚は200とし、下梁を引掛け構造上安全に配慮した。

②段差処理

2FLとの段差を無くするため、緑化スペース以外に、ウッドデッキを敷き詰め段差の無い言+画とした。

③緑化計画、防水

スラブを下げたエリアは全てアスファルト防水とし、緑化言+画スペースも防水に配慮して、アスファルト防水した。

(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性に応じて採用した耐震計算ルートとそれらを採用するに当たり、耐震性を確保するために架構計画等について考慮したこと

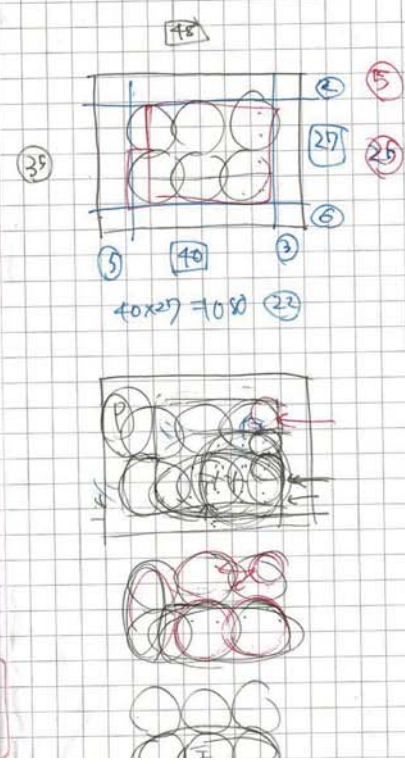
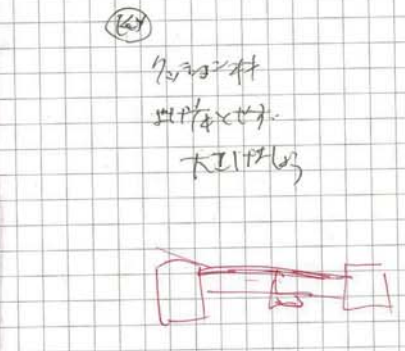
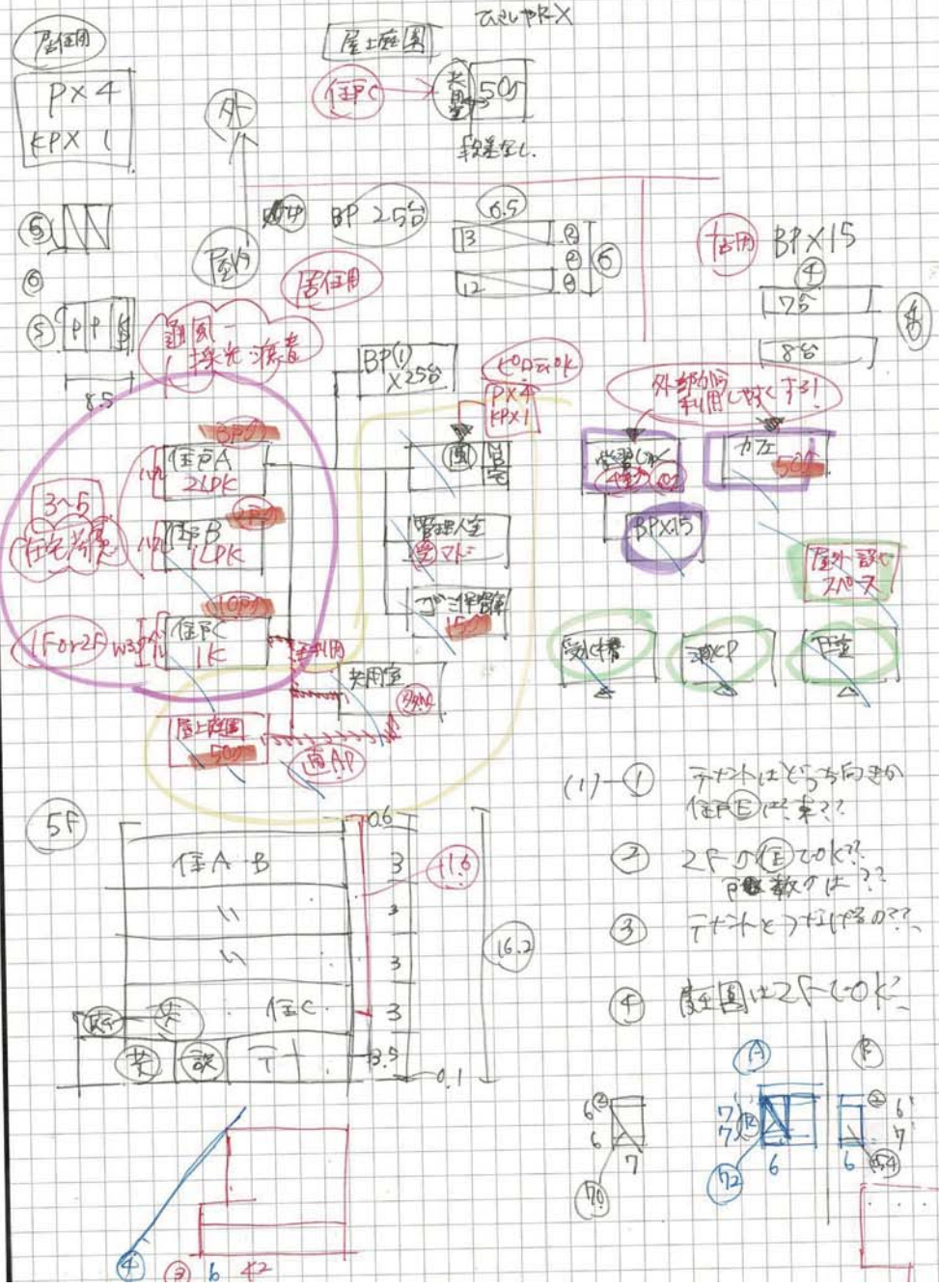
耐震計算ルート (○で囲む。)	ルート1 ・ ルート2 ・ <u>ルート3</u> ・ その他()
考慮したこと:	耐震性に考慮して、ルート3を採用し、保有水平耐力が、必要保有水平耐力の1.2倍となる言+算とした。 又、架材計画は、耐震性を考慮してラーメン架構とし、無理のないスパン割りとした。

(5) 地盤条件や経済性を踏まえて採用した基礎構造とその基礎底面のレベルについて考慮したこと

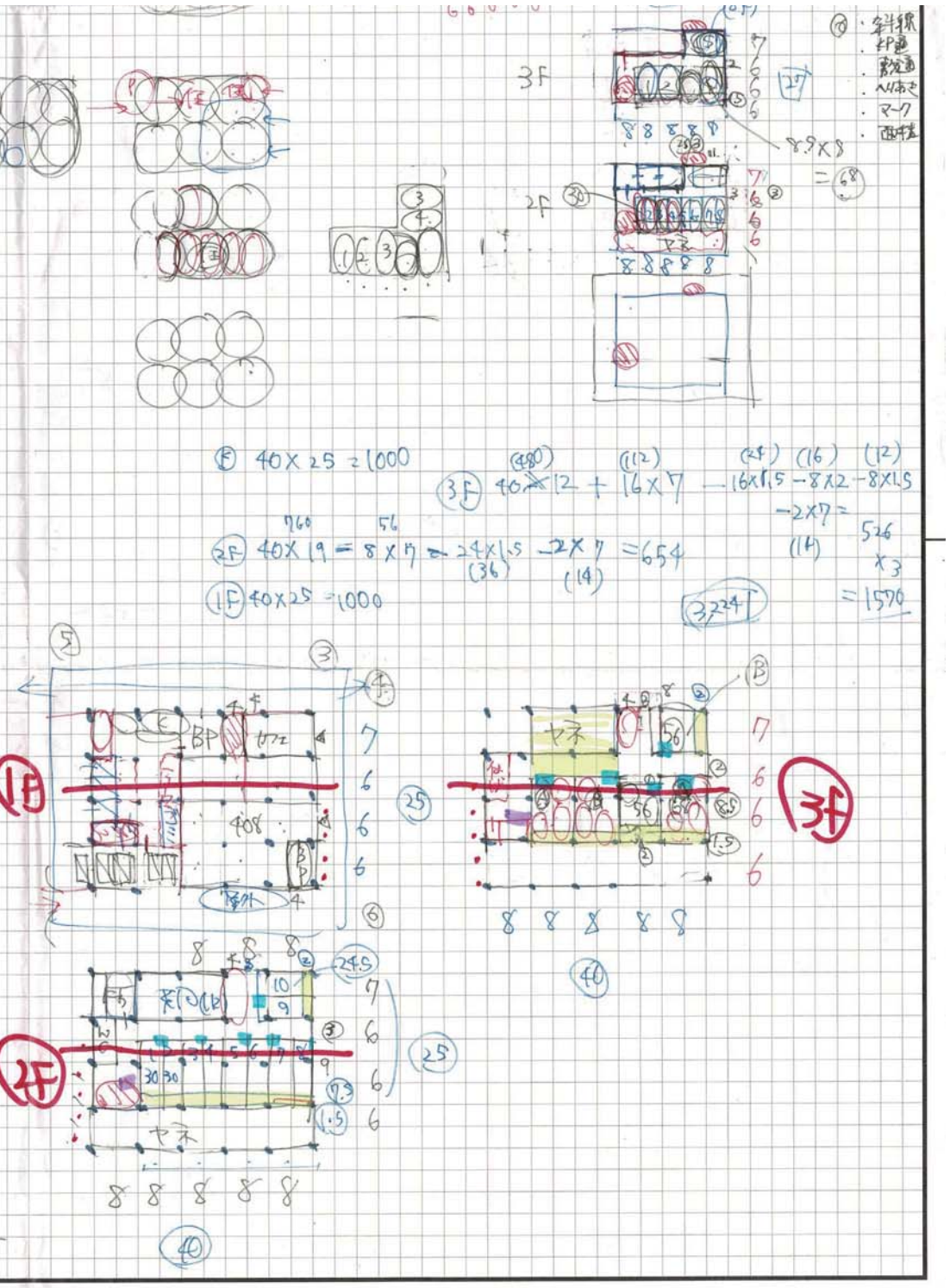
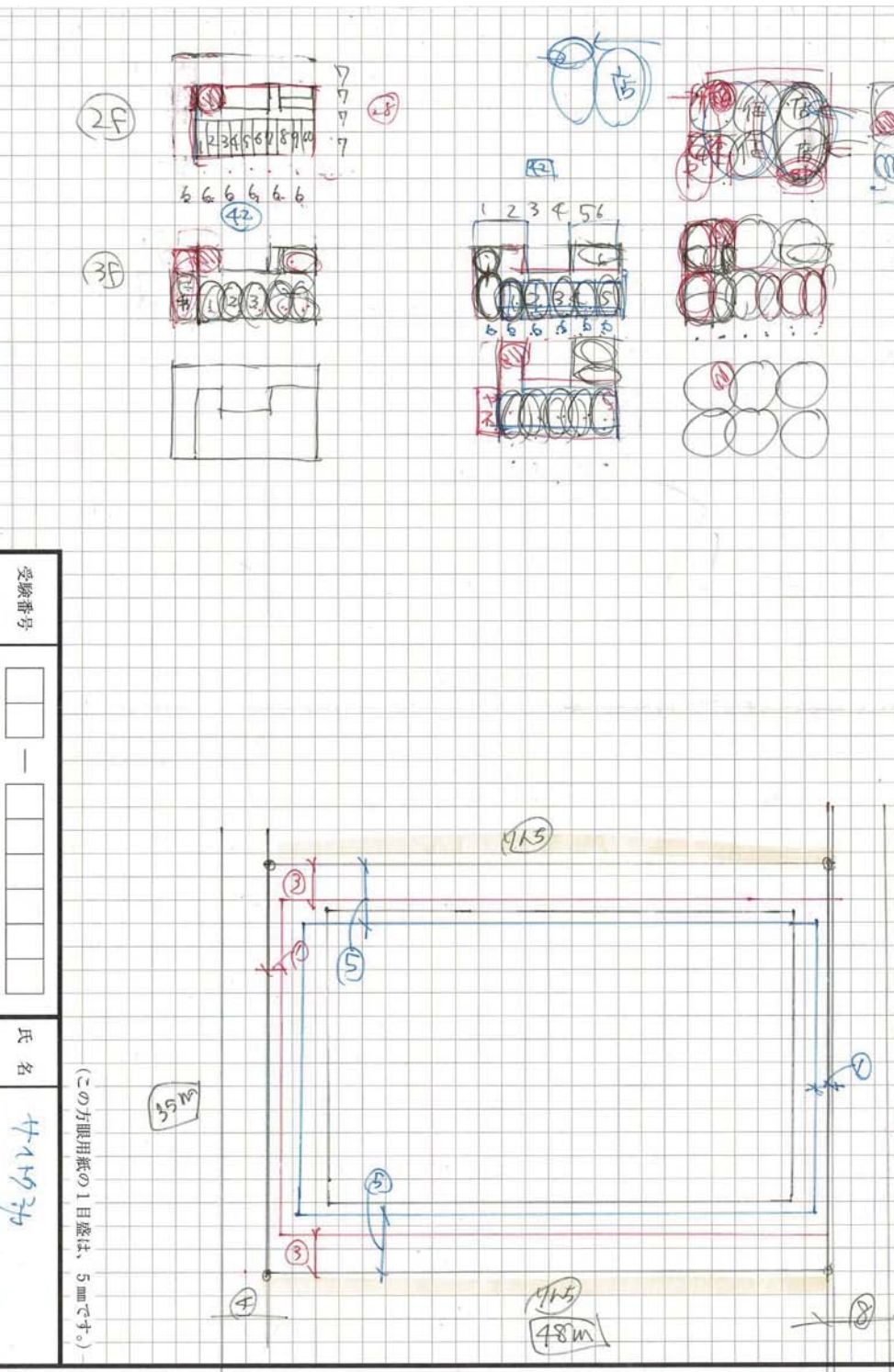
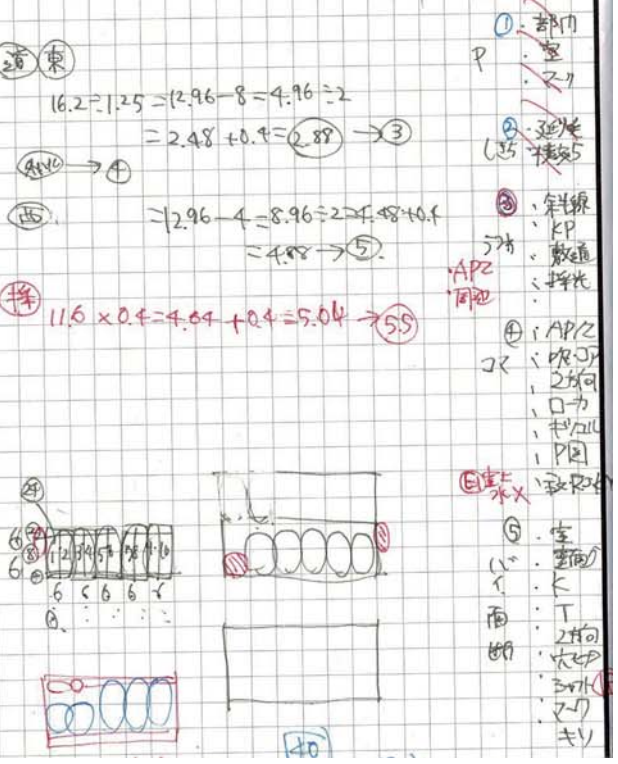
N値30以上の砂礫層で支持させたため、基礎底面レベルGL-2.0のバタ基礎とした。ただし、N値10程度の地盤が混在しているため敷地の半分(2m)の範囲のバタ基礎下H3.0mを地盤改良する言+画とし、不同沈下を配慮した。

(注意) この下書用紙については、試験終了まで試験室に在重しと見做し、持ち帰りを認めず(中途退室者については、持ち帰りを禁止します)。

建築士試験 下書用紙



AC	換	水	消	E	EV



受験番号

氏名

411924

(この方眼用紙の1目盛は、5mmです。)

$40 \times 25 = 1000$
 $40 \times 19 = 8 \times 7 = 24 \times 5 - 2 \times 7 = 654$
 $40 \times 25 = 1000$
 $40 \times 12 + 16 \times 7 = 16 \times 5 - 8 \times 2 - 8 \times 15 - 2 \times 7 = 526 \times 3 = 1578$

「集合住宅」

(2) 要求室
下表の室等は、全て計画する。

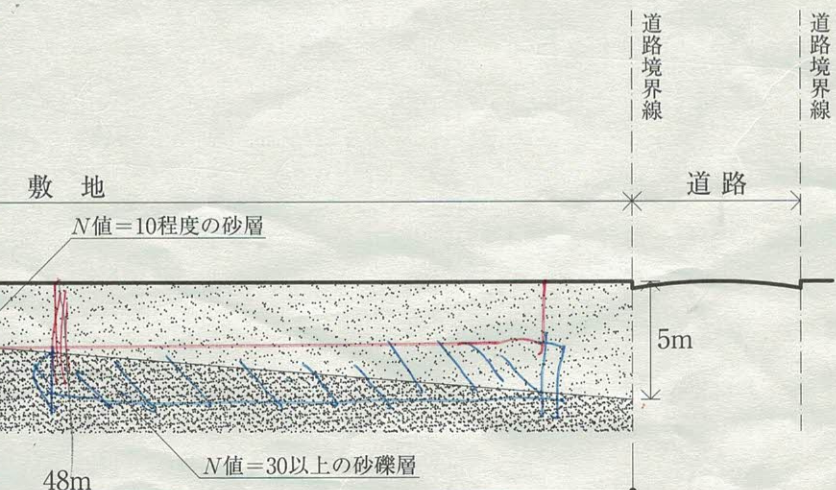
部門	室名等	特記事項	床面積
住宅部門	住戸A	基準階(3~5階)の各階に3戸以上(計9戸以上)計画する。 室構成は、2LDKとする。 在宅勤務を考慮したスペースを設ける。 バルコニーを設ける。	1戸当たり約75m ²
	住戸B	基準階(3~5階)の各階に2戸以上(計6戸以上)計画する。 室構成は、1LDKとする。 在宅勤務を考慮したスペースを設ける。 バルコニーを設ける。	1戸当たり約50m ²
	住戸C	1階又は2階に計10戸以上計画する。 室構成は、1K(ワンルーム)住戸とする。 間口は、心々3m以上確保する。 バルコニーを設ける。	1戸当たり約25m ²
	共用室	主として、住戸Cの入居者が使用する共用空間とし、ソファ等を置き、集えるスペースを確保する。 キッチンコーナーを設ける。 車椅子使用者が利用できるトイレを設ける。 屋上庭園から直接行き来できるようにする。	100 適宜
	エントランスホール	風除室を設ける。 ラウンジコーナーを設け、住戸数分のメールボックスの他に、宅配ボックスを設置する。 セキュリティに配慮する。	50 50 適宜
	管理人室	エントランスホールに面して(窓)受付カウンターを設ける。	20 適宜
テナント部門	ゴミ保管庫	入居者が臨時利用可能なものとし、収集日には管理人が所定の位置に運ぶものとする。	15m ² 以上
	駐輪場(1)	入居者用として屋内に25台分のスペースを設ける。 駐輪方式は平置きとする。	50 適宜
	学習塾	主として、小学校高学年から中学生を対象とする。 1室当たり30m ² 程度の教室を4室以上設ける。 60m ² 以上の放課後学習室を設ける。 受付及び事務室を設ける。 トイレを設ける。	約400m ²
	カフェ	軽食を提供できる程度の厨房を設ける。 トイレを設ける。	50m ² 以上
設備	駐輪場(2)	学習塾受講生用として屋内に15台分のスペースを設ける。 駐輪方式は平置きとする。	25 適宜
	受水槽室	受水槽及び給水ポンプを設置する。	約25m ²
	消火ポンプ室	屋内消火栓用とする。	約15m ²
	電気室	電力会社の受変電設備を設置する。	約10m ²
	エレベーター	エレベーターは、1台(住宅用9人乗りトランク付き又は13人乗り)以上設ける。 採用した設備計画に応じて、「機械室」等を適切に計画する。 PS等は、適切に計画する。	
その他、必要な室等は、適宜計画する。 仕器等を、適宜計画する。			

1F	2F	3~5 (3F)
		75x3=225 50x2=100 325x3F=975
	25x10=250	
	100 (50F)	
120		
15		
50		
400		
50		
25		
50		
710		

3. その他の施設等

- 屋上庭園を、次のとおり計画する。
 - 住宅部門の入居者同士の交流スペースとし、50m²以上(庇や屋根となる部分は除く)の屋上庭園を計画する。
 - 共用室に隣接した位置に設け、屋内から屋上庭園への出入口については、段差のない仕様とする。
 - 植栽、通路等を設ける。
- 駐車場は、平面駐車とし、入居者用として5台分(そのうち、1台は車椅子使用者用とする。)のスペースを設ける。
なお、建築物内に計画してもよい。

住居 PX4
KPX1



地盤略断面図 (X-X' 断面図) 縮尺=non-scale